



福岡貿易会情報誌 福貿ニュース

本年もよろしくお願ひいたします



公益社団法人 福岡貿易会
会長 並田 正一



公益社団法人 福岡貿易会
FUKUOKA FOREIGN TRADE ASSOCIATION

会員の皆様、新年、あけましておめでとうございます。

昨年、当会は公益社団法人に改組し新たな発展を目指すことになりましたが、皆様方におかれましては、日頃から会の運営にご理解・ご協力を賜り、改めてお礼申し上げます。

さて、昨年の国内の経済状況は金融緩和や経済対策などの「アベノミクス」効果からか、消費者や企業のマインドが改善し、消費・輸出の持ち直しや企業の設備投資が増加に転じるなど、景気は徐々にではありますが回復傾向にあったように思われます。政府の月例経済報告においても、景気は緩やかに回復しつつあるとの表現も見受けられたところ です。

最近の円高水準の訂正の動きには、産業界を中心に歓迎の声が上がっておりますが、円安については、今後、輸出関連企業の海外競争力が向上することで各企業の業績が好転し、それが雇用の増大や賃金・株価の上昇等につながって、日本の景気全体を押し上げる効果が期待されること です。

しかし、急激な円安の進行には、恩恵を受ける企業と輸入コストの増大により収益が圧迫される企業との間の業績格差が拡大することに加え、今年、予定されている消費税率の引き上げによる個人消費の冷え込みを懸念する声もあり、今後の景気の動向には留意が必要と思われ ます。

観光・ビジネスの分野では、昨年4月にKLMオランダ航空による欧州直行便（福岡-アムステルダム線）が就航し、10月には、JR九州の豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」が運行を開始するなど、福岡・九州地域の観光・ビジネスの振興につながる明るいニュースが続きました。さらに9月には2020年夏季五輪の東京開催が決まるなど、日本全体に景気好転の兆しが見えてきた年であったように思います。

しかしながら、一昨年から続いている近隣諸国との関係は、未だ改善の兆しが見えておらず、依然として貿易・観光分野への影響が続いているほか、世界経済の今後の見通しについても、政情不安による紛争リスクの高まりなど、予断を許さない状況が続いていること です。

当会では、これらの現状を踏まえ、引き続き会員各企業、官公庁、関係諸団体、外国公館等の皆様との連携を、より一層深めながら、当会の目的である貿易の振興による福岡地域の経済発展・活性化に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が会員の皆様にとって充実した良い年になりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

平成25年度 年末会員交流会を開催



12年ぶりの九州の地で 両国の絆をさらに強固に



在福岡アメリカ領事館 首席領事
ユーリー・R・フェッジキフ

12月4日（水）、当会恒例の年末会員交流会を、西鉄グランドホテルで開催しました。交流会には120名を超える方々にご参加いただき、第1部は講演会、第2部は懇談会という2部形式により開催しました。

第1部の講演会では福岡市長高島宗一郎様からご講演をいただき、引き続き行われた第2部の懇談会では、国、福岡市などの行政機関をはじめ、在福の外国公館や貿易機関から多数ご来賓としてご参加いただき、盛会に行うことができました。

また、交流会に先立ち行われた「参事会」では、事務局から、会員サービスの向上や会の今後のあり方、会員の関与を高めるための新たな取り組みなど今後の会の運営に関する提案が行われ、最後に、これまで当会で実施したセミナー、語学講座の報告が行われました。

この度、12年ぶりにこの九州の地に再び戻る事ができたのは、喜びに堪えません。1999年から2001年にかけて、私は大分市で2年間を過ごし、国際交流員として英語の観光情報を作ったり、大分で開催された日韓ワールドカップの準備に関わったり、またテキサス州オースチンとの姉妹都市に関する調整などを行いました。日本における最初の経験は、学生時代の大阪だったのですが、私の中では日本の古里はいつも大分であると感じていました。アジアの玄関口といわれ、九州で最大の都市福岡が、今後3年間の私の“ホーム”となります。

アメリカ領事館の首席領事として、就任することができ、大変感激しています。私どもの領事館は、九州7県と山口を管轄地域としており、あらゆる面で当地域における二国間関係の発展に関し、主な役割を担っています。

9月初旬に着任して以来、「国境の島」と呼ばれる対馬を含め、全ての8県を訪れました。そして、それらの訪問の中で、それぞれの地域の政治およびビジネスのリーダーの方々と、幅広い分野に関し、意見交換を行う事ができました。今後も引き続き管轄地域内を訪れ、様々な方々とお会いするのを楽しみにしております。

アメリカと日本は、経済を含め、両国の関心事であるあらゆる分野において、緊密な協力関係にあります。結果として、両国はより強くなっていると信じています。アメリカは、急成長するアジア太平洋地域における包括的かつ高い基準の貿易・投資の枠組みを構築するTPP交渉への日本の参加を歓迎しています。オバマ大統領が言うように「TPPは、貿易および投資障壁の低減、輸出の拡大、国民の雇用の創出により、各国の経済を活性化させる（中略）TPPは、アジア太平洋だけでなく、将来の貿易協定にとっても手本となる可能性があります。」言うまでもなく、両国の経済は強い絆で結ばれています。世界第三位の経済大国である日本は、アメリカの製品やサービスにおいて、4番目に大きな輸出市場であり、双方向の貿易額においても4番目に大きな貿易相手国です。アメリカにおける直接投資の観点から見ると、日本は2番目に大切な投資国で、累計2,570億ドル以上の投資がなされています。

日本経済の1割と言われる九州とアメリカの関係もまた強いものがあります。約250の米系企業が九州に進出しており、電子機器、コンピューター、あるいは医療機器等の分野で研究や製造を行っています。また、建築、エネルギー、保険、および金融分野のアメリカ企業も積極的に九州に進出しています。このようにビジネス上のつながりは強いものがありますが、もっと強くなるポテンシャルが存在すると

思います。アメリカ領事館は日本市場に関心を持つアメリカ企業と製品に対し、支援を行っています。アメリカ投資のお手伝いをするSelectUSAという商務省のプログラムがありますので、九州・山口で関心のある企業は、是非ご利用いただきたいと思えます。（参照：<http://japanese.japan.usembassy.gov/business.html>）

今までに世界7カ国に住み、世界を旅した経験から、アメリカは、ビジネスを行うに最も適した場所であると信じています。3億1千万の人口からなる巨大なマーケットを持ち、透明な法制度、生産性の高い労働力、そして、世界で最も革新的な企業をアメリカは持っています。2012年には、世界銀行が“Ease of Doing Business Report”（事業のしやすさに関する報告書）でアメリカを世界で4番目の国であると報告しました。アメリカで企業を起こすには1週間とかからず、それは世界の平均よりもずっと早く、OECD平均の13日と比べても短い期間です。巨大なアメリカ市場は、マーケットシェアの小さい企業であっても、相当の収益源と利益を得られる可能性を意味し、ひいては九州・山口地域の中小企業にとっても機会が存在するという意味を意味します。

過去1年間を振り返りますと、在福岡アメリカ領事館は、アメリカ企業および製品のトレードショー参加のお手伝いをし、アメリカにご関心のある旅行代理店向けのセミナーを開催し、ビッグデータをビジネスの機会にどのように利用できるのかというテーマに関し、セミナーを行いました。また、九州のグローバル人材、特に起業家精神の発展、イノベーション、および世界の労働力の面で発展させるために地元のパートナーと協力しました。二国間の人と人との交流が両国の経済発展に寄与すると強く信じています。ゆえに、私自身が日本での留学経験が人生をより豊かにしたように、九州・山口のより多くの学生がアメリカへ留学し、新しいチャレンジを経験し、国際的な視野を広めることを期待しています。アメリカにおける日本人留学生の数は、ピーク時である1997年と比べて、半分以下の20,000人にも減少しました。過去においてアメリカ留学生を送り出す世界のトップであった日本が、今やインド、中国、韓国、サウジアラビアに抜かれ、7位の地位にとどまっています。

私の新しい上司であるキャロライン・ケネディー大使は、最近、日米同盟を繁栄し、かつ平和な世界にとって欠かせないもの、そして日本をこの地域の民主主義と経済の発展に不可欠なパートナーと表現しました。これはそのままこの九州・山口地域にも当てはまります。両国の絆をさらに強くするため、私のできる全てのこと力を注ぐのを楽しみにしています。

会員交流会第1部 高島市長講演会

「福岡市の経済戦略～現状と今後の取り組み～」と題してご講演いただきました。

市長からは、成長を続ける福岡市の現状について説明の後、福岡市の世界に向けた今後の取り組みや未来に向けたプロジェクトなどについて、1時間近くにわたり熱く語っていただきました。



会員交流会第2部 交流会

土屋副会長の乾杯のご発声によりスタート。和やかな雰囲気の中、会場では名刺交換や懇談が活発に行われ、最後は、恒例により角川副会長の博多手一本により終宴となりました。



新会員のご紹介



来賓の方々



懇談の様子



角川副会長による博多手一本

特別寄稿

躍進を始めた 巨大市場 「アフリカ」に注目

三井物産株式会社
九州支社長 小島 俊二 (福岡貿易会 副会長)



2013年6月1～3日、横浜で第五回アフリカ開発会議 (TICAD V) が開催されました。「躍動するアフリカと手を携えて」を基本メッセージとし、39名の国家元首・首脳級を含むアフリカ51カ国、31カ国の開発パートナー、72の国際機関等、約4,500名以上が参加し、我が国が主催する過去最大規模の国際会議となりました。これだけ大規模な会議になったのは、アフリカの急成長と潜在力が国際的に大きな注目を集めている事の現れだと思います。

私は2013年4月末まで、アフリカに駐在し、アフリカの現状を肌で感じて参りました。多くの日本人にとってアフリカは未だに、接点に乏しい、とても遠い国との印象では無いかと思いますが、実際のアフリカは日々猛烈な勢いで変わりつつあり、「遠い国」で済ませられる状況では無くなっていると思います。

アフリカの経済成長率の過去10年間の平均は5.6%と、安定した高成長を保っており、これは先進国の1.8%、ASEANの4.9%を上回る高成長率です。人口も1950年に2.2億人だったのが、2009年には10億人を突破し、現在は10.7億人。2050年の人口統計予想では、先進国や中国が人口減であるのに対し、アフリカは11億人増(200%増)の22億人とされています。アフリカの貿易額も過去10年間で急激な成長を見せており、輸出は2002年の1,513億ドルが、2011年には5,909億ドル。輸入は2002年の1,526億ドルが、2011年には5,387億ドルと驚異的な伸びを見せています。

この急成長により、アフリカの底辺層が底上げされ、購買力が上昇。アフリカは従来の被支援国から、消費市場に変わり始めています。その潜在力の大きさから、欧米企業を中心にアフリカを「第2のチャイナ」と呼び、

積極的な進出が進んでおり、中国や韓国企業もアフリカでの存在感を示しています。アフリカというと被支援国のイメージがとても強いと思いますが、2005年には対アフリカのビジネス投資総額が援助総額を上回り、更に急速に伸びています。アフリカへの海外直接投資残高は、2000年の1,540億ドルが、2011年には5,700億ドルと、実に3倍近い伸びを示しています。

一方で、残念ながらこれ迄の日本政府と日本企業の動きは鈍かったと言わざるを得ません。現地ではトヨタ自動車等の日本車の存在感はそれなりにありますが、インフラ事業では欧州企業や中国・韓国に比べると大きく見劣りしています。

日本企業の海外進出状況を見ると、中国・東南アジアに進出している日系企業は約3万社、中東・南西アジア・中南米は約3000社。これに対して広大なアフリカに進出している日系企業は僅かに500社程度しかいないのが実態で、残念ながら官民ともに出遅れていると言わざるを得ません。TICAD Vで日本政府は、アフリカに対して今後5年間で最大3兆2,000億円の資金を官民合同で投じる意思を表明しました。確かに巨額な支援であります。一方で例えば中国は2000年からの10年間の対アフリカ支援額は約7兆5,000億円にも上ります。我が国は官民を挙げて、アフリカ諸国と相互利益に基づいた経済関係を構築することが不可欠です。

アフリカでは未だ多くの国が、貧困、治安、政情不安、教育問題等の大きな課題を抱えているのは事実です。しかしアフリカ大陸には54カ国もの国があり、国によってその抱える問題のレベルは様々であり、既に広範囲に亘る豊富なビジネスチャンスを持つ国も育って来ています。躍進を始めたこの巨大市場にこれからも注目して行きたいと思っています。



韓国へ経済視察団を派遣しました

福岡貿易会では、11月18日(月)から20日(水)の日程で、韓国へ経済視察団を派遣しました。航空機で金海国際空港(釜山)から入国し、大邱市、大田市経由でソウル市に入りましたので、3日間で韓国を縦断したことになります。

今回は、日韓関係が冷え込む中、経済面での影響について現地を実際に見て確認することを主な目的としました。

(大邱市)

大邱市は、人口約250万の韓国第3の都市で、2011年に世界陸上が開催されました。ジャマイカのウサイン・ボルト選手が100mでフライング失格になった場面を記憶されている方も多いのではないでしょうか。

金海国際空港から専用バスに乗車後、約90分で大邱に到着し、「大邱テクノポリス」を視察しました。開発面積7,266千㎡という広大な土地に、産業用地や研究用地の外、居住施設用地や公共施設、緑地などを併せ持つ経済特区です。

日本からは、石川県の中村留精密工業(株)が進出していました。まだまだ、開発途上で、建設中のビルも多くありました。大邱市は海に面してはいませんが、主要港湾都市からのアクセスも良いとのアピールもありました。

大邱市では、8,548千㎡の国家産業団地を造成中とのことで、日本専用企業専用ゾーンも設ける予定だそうです。このように大規模開発が進んでいますが、その他の地方都市も産業団地を造成するなどしており、これから、韓国地方都市間での企業誘致競争が激しくなるものと思われました。

次に、永進専門大学を訪問しました。在学生が7,765人(2013.4)の2年制大学で、注文式教育というユニークな取り組みで注目を集めています。企業のこういう人材がほしいという注文に基づき、専攻クラスを編成し、



その注文にかなった人材を育成するという教育を行っています。韓国で、就職率が2年連続で全国1位だそうです(2012年:79.3%)。

日本企業に対しては、韓日企業支援センターを別に設置して、専攻教育に加え、日本語教育や日本文化、マナーを教育しているということで、現在、日本企業22社とお付き合いがあるそうです。今回は見ることができませんでしたが、企業に賃貸する開発室や小規模工場がある第2キャンパスを建設中でした。

センターの主な目的が韓国進出のリスクを低減するというものですが、日本との交流も活発で、日本人の教授もおられるので、人材の採用について興味のある方は、コンタクトを検討されても良いかもしれません。(韓日企業支援センター HP: <https://jpn.yjc.ac.kr>)

(大田市)

大田市は、人口約150万の韓国第5の都市です。1993年に世界万博が開催され、今も当時の建物が残っています。大田市には、大徳研究開発特区に28の政府の研究機関があり、韓国の技術開発の中心都市となっています。

私どもが訪問した第一コリアは、大田市の街中の産業団地に2012年4月に設立されました。韓国への進出の理由は、社会的なコストが低廉であることが大きな動機だったそうです。確かに、日本は韓国に比べて電気や高速道路の料金などが高コストなのは間違いありませんが、移動中に我々が乗ったバスに給油した際に確認したところ、ガソリン価格は韓国の方が少し高いくらいでした。

最近では、自分達ではどうにもできない為替レートのような大きな変動があつて、取引額が安定しないのが問題だそうです。また、韓国の若い人材は優秀な者が多いと感じられており、上記の永進大学からも採用実績があるそうです。ただ、韓国で聞いた話を総合すると従業員の在社期間が短い傾向にあるため、スキルの継承などに課題を抱えている企業も多く、韓国での会社経営は従業員の定着率と育成も課題のようです。いずれにしろ、韓国は、企業間格差や個人負債の増大などリスク要因を抱えていますが、2014年もGDPは4%の成長(OECD)が見込まれるなど、まだ経済発展が続くということができます。



(ソウル市)

大田市から、約2時間ほどでソウルに入りました。途中は雪景色もあり、ソウルはやはり寒いと感じました。

ソウルでは、当会の会員企業である西日本シティ銀行のソウル事務所を訪問しました。1991年7月に設立され、現在は所長と現地スタッフの2名で運営されており、地元企業の貿易取引や投資の支援を行われています。

2012年は日本の対韓直接投資額が過去最高になり、今年はその影響もあって、前年比で見ると投資が減少しています。そのこととは関係ないかもしれませんが、福岡から韓国へ進出しようという企業はそう多くないと感じられているそうです。

今日、日韓関係は良好とはいえませんが、現地では、日本人だからといって、危害にあったという話は聞かないし、ビジネスと政治は分けて考える人が多いように感じるとのことでした。しかし、日本人としては気分が良くないこともあり、マインドの問題はあるようです。今後の日韓関係は、中国との関係を含めて、難しい問題だと改めて感じました。

と改めて感じました。

次に、これも会員企業「やまや」の店舗「博多もつ鍋やまや」に昼食のためお邪魔しました。

昼はもつ鍋は提供されておらず、定食をいただきましたが、席待ちのお客の列もできていて盛況でした。何となく日本食(日式といいますが)が多い中で、日本と変わらない味でした。経営は、韓国企業と提携されているそうで、日本人の責任者の方はおられませんでした。

ソウルでは、やはり中国人旅行者に頻りに出会いました。仁川国際空港は、相変わらず人が多く、広大な駐車場も満車に近いように見えました。私どもが搭乗した航空機は、行き帰りとも満席に近く、韓国を訪問する人が減少しているという数字については実感がありませんでした。

(事務局 岡部 孝雄)



上海通信

ネットショッピング祭り“双十一”

皆様明けましておめでとうございます。今年も上海通信よろしくお願いたします。

さて、昨年のお話になりますが中国では11月11日が「独身の日」として定着しつつあります。中国では昔から独身の男性のことを「光棍(樹皮を剥いた棍棒)」と呼ぶのですがその棍棒が数字の「1」に似ていることが由来となっており、ここ数年、1が4つ並ぶこの日を“光棍節”又は“双十一”としてお祝いするようになりました。

2009年にアリババグループが運営する中国最大のB2Cサイト「天猫(Tモール)」で双十一セールを実施したことをきっかけに、この日はネットショッピング祭りとしても定着し、活況を呈しています。昨年の双十一セールにおける天猫の売上は350億元、1円16円換算で5,600億円に達しました。2009年の第1回セール時の売上が5,200万円でしたので、この4年でおおよそ700倍規模の一大イベントへと成長したことになります。

この数字は単純にこのセール自体が成功したということ以外にも、ここ数年で中国のネットショッピング環境が整ってきたということも大きな要因だと思います。2009年当時と比べると在庫管理、物流システム、ネット決済、カスタマーサービス、それぞれがかなり進化しているように感じます。またスマートフォンの普及もこれを後押ししています。今回のセールでのモバイル端末からの購入者は53.5億元(約856億円)と全体の売上の15%に達したそうです。

さて、そんなこんなで一大ネット祭りとなった双十一ですが、堂々の売上第1位を達成したのは「小米」という北京の携帯電話端末の会社で、54,946万元(約88億円)を1日で売り上げたそうです。小米科技有限责任公司は2010年に設立された新しい会社で低価格路線のスマートフォン+ネットでの販売に特化して急成長を遂げている会社です。一般的な人

上海代表処 所長

榊原 英明



気のスマートフォンは中国でも5,000元前後(約8万円)と安くない買い物ですが、小米のスマートフォンは700元(約1万2千円)からラインナップがあり、特に若者にとって手の届きやすい価格帯のため非常に人気があります。2位以下は家電のハイアール、アウトドアウェア中心アパレルのCAMEL、家具寝具のLOVO、ジャックジョーンズと続きますが、第6位には日本勢として唯一、ユニクロがトップ10内に食い込みました。ユニクロのこの日の売上は1億1,980万元、約19億円を売上げました。ユニクロは海外でのリアル店舗出店も急速に展開しており、中華圏(中国、台湾、香港)での出店数は2013年8月末で280店舗、来期も100店舗ほど新規出店を見込んでいるそうです。

売上トップ10を見ると携帯端末、家電、家具、アパレルと日本のネットショップ上でも上位に来るカテゴリーのものが大半でした。ただ、トップ10にはわずかに届きませんでした。東方ルノーもこの日、1,179台の乗用車を受注し、その売上げは1億元弱までに達したそうです。

ただし、このセールも天猫内で特売商品を出して待っていればお客さんがアクセスしてくれるというものでなく、事前に相当の広告が投下されていました。天猫内でのPRはもちろん、WEIBO、Wechat等のSNS、屋外広告、地下鉄やバスの交通広告、実店舗での広告とありとあらゆるところでPR展開が実施されていました。以前だと媒体に広告を出して実店舗に顧客を引き込むスタイルが主流だったように思いますが、現在は双方向になってきています。最近よく耳にするO2O(Online to Offline)、ネットとリアルの融合ですが、このスタイルは今後中国での小売りにおいてもますます重要になってくるでしょう。

この“双十一”では売上高もさることながら、それに伴う配送業務も膨大なものとなっています。国家郵政局の発表によると11月11日～16日までの配送サービス利用は3.46億点もあったそうです。しかも、このセール、冷静さを失いとにかく買いまくった消費者が多かったようで、一部報道では商品の返品率が売上総額の25%にも達していると言われていました。配送業者側でもそもそも爆発的に配送量が増加していることに加えて、個々の返品にも対応せねばならず、てんやわんやの状態です。このレポートを書いている11月20日現在でも路上のあちこちで段ボールの仕分けが行われている現場を目にします。祭りの後片付けはもうしばらくかかりそうです。

第12回環黄海経済・技術交流会議に福岡貿易会から参加

昨年、中国側からの申し出により急遽中止された環黄海経済・技術交流会議が、今年、中国側からの要請により、11月6日～7日の日程で中国江蘇省連雲港市にて開催されました。連雲港市は江蘇省の北部に位置し、青島から車で約3時間、上海から車で5時間の位置にあり、唐代は海州と呼ばれ春秋時代には呉を滅ぼした越王勾践が首都とし、秦朝時代以降江蘇地区の重要港湾都市となっています。現在も、鉱物資源用在来埠頭とコンテナ埠頭の整備が進められ、世界150余りの国・地域・港湾と繋がる中国八大港湾の一つとなっています。また、近年では、国家級連雲港経済技術開発区が設置され世界各国から投資が進んでいます。交通面では中央アジア・カザフスタン経由でオランダ・ロッテルダムとを結ぶ鉄道「ニューラシアランドブリッジ」の東の起点として注目されています。観光面では西遊記の孫悟空が活躍した花果山が有名。また、徐福の故郷といわれ、渡来定住伝説のある佐賀市と姉妹都市を締結しています。

本会議は、東アジア・環黄海地域の経済圏域の発展と交流の深化を目指す「一大国際フォーラム」として2001年からスタートし、環黄海圏の産学官の関係者が集う場の提供と、各々が具体的に交流する将来に向けた考えを共有し、パートナーシップの構築を支援する場となっています。本会議は九州・中・韓各都市の持ち回りで開催されており、来年は九州・長崎で開催予定です。

今回、九州からは、本会議発表に九産局・廣質局長、九経連・麻生会長、環境部会事例発表に環境テクノス(株)鶴田社長、三菱長崎機工(株)平井グループ長、港湾部会事例発表に博多港ふ頭(株)江頭社長、山九(株)日比部長他総勢52名が会議・産業視察に出席しました。

本会議は今年で12回を数えることから、ある程度目的を達しているかと個人的には思っていますが、厳しい政治的局面を、地方・産官学の面から少しでも改善するための役割に期待したいと思います。

(専務理事 甲斐敏洋)



本会議での日・中・韓代表者による討議



産業視察、連雲港
(ニューラシアランドブリッジ起点)



実務セミナーに参加しませんか

福岡貿易会では、貿易に関する各種のセミナーを開催しています。特に実務セミナーには、経験豊富で丁寧な説明で評判の講師の方々をお呼びしており、参加者からは、実務に役立つと大変好評です。

セミナーの参加者からは、「初任者の自分がこれまで曖昧にしていたことがはっきりした」「貿易実務を複数の立場の視点で解説されたのがよかった」「事例が豊富でイメージしやすい内容だった」「書類の作成など演習プログラムもあり勉強になった」などの感想が多数寄せられています。

セミナーの開催については、会員企業の皆様にはEメール、FAX等でお知らせしておりますが、会員以外の方も参加大歓迎のセミナーです。来年度も実務に即した多彩な内容で開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

最近開催した実務セミナー

○貿易実務講座応用編 <10月8日(火)開催>

○アジア進出成功の秘訣と海外人事 <10月9日(水)開催>

(主な内容)

EPA・FTAと原産地証明の完全理解、三国間貿易の完全理解と書類作成の実務、海外人事と労務(事例を中心に学ぶ) など



【講師】 中矢一虎法務事務所
(司法書士 行政書士)
国際法務株式会社
代表取締役 中矢一虎 氏

○海外PLリスク&貿易保険セミナー <11月8日(金)開催>

(主な内容)

海外におけるPLリスク

(海外における製造物責任と賠償リスクの概要、リコールリスクの態様)

貿易保険について

(貿易における取引リスク、事例からみる潜在リスク) など



【講師】 損保ジャパン日本興亜
リスクマネジメント(株)
主任コンサルタント
藤原俊明 氏



【講師】 (独) 日本貿易保険
大阪支店
営業グループ長
服部義一郎 氏

○輸出入金融セミナー応用編 <11月14日(木)開催>

○貿易実務講座リスク管理編~ケーススタディで学ぶ実務のリスクとポイント~<11月15日(金)開催>

(主な内容)

外国為替とは、代金回収リスクの回避、相場の種類
為替変動リスクの回避、インコタームズの留意点、
信用状取引と物流、外為法に基づく輸出の法規制 など

【講師】 (株)アースリンク
代表取締役 貿易アドバイザー
曾我しのぶ 氏



○インターネット海外販路開拓セミナー ~ネットで探すビジネスパートナー~<11月27日(水)開催>

(主な内容)

インターネットから始める海外市場開拓
インターネットを活用したジェトロの国際ビジネス
プロモーションプログラムの紹介 など



【講師】 アリババ株式会社
国際事業部
シニアエバンジェリスト
小滝浩哉 氏



【講師】 ジェトロビジネス情報サービス部
高多有希子 氏



第63回 福貿会ゴルフコンペを開催

10月30日(水)、芥屋ゴルフ倶楽部にて第63回ゴルフコンペを開催しました。

当日は絶好のゴルフ日和の中、李天然中華人民共和国駐福岡総領事にもご参加いただき、総勢48名でのコンペとなりました。

参加者は、トーナメントコースに悪戦苦闘しながらも、和気あいあいとラウンドを楽しみました。



会場は、憧れのトーナメントコース「芥屋ゴルフ倶楽部」



李天然総領事から「総領事賞」を贈呈



スタート前の全員集合

会員便り

「平成二十三年 晩秋
イスラエル・
トルコ紀行 ②」

（個人）参町ホーム 代表取締役
池田 憲和



二、野州那須別邸

栃木県という所は今も昔も東京から手が届く場所にある別荘地のように、かつては乃木希典、大山巖、山縣有朋ら明治の元勳と言われた人々が少なからず那須近辺などに別荘地を持っていたらしく、中には一般公開されていないものもあるのに対し、「道の駅」の中で堂々と一般公開されていたのがこの青木周蔵の旧那須別邸であった。

無論、山田寅次郎青年もまさか、この那須別荘でトルコへの義捐金送付の話を持ちかけたわけではないだろうが、別荘の中には青木の人となりや経歴などが展示してあり、私は恥ずかしながら、ここで改めて、青木が元長州藩士であったこと、ドイツ貴族の娘を娶っていたこと、その妻との間にできた一人娘・ハナはドイツへ嫁ぎ、ペルー日本大使公邸占拠事件時の在ペルー特命全権大使・青木盛久は曾孫（跡を継いだ養子の孫）になること等々を知った。

*

なお、少し余談だが、それらの中で少し印象に残っているのが「山縣有朋記念館」である。



山縣有朋とは、言うまでもなく、吉田松陰を師と仰ぐ松下村塾出身の長州藩士で、維新後は二度にわたり内閣総理大臣となるなど明治の元勳として日本政界に君臨した人物である。さぞかし、贅を尽くした建築物なのだろうと思っていたが、行ってみて、まず驚いたのが「山縣」という名前の会社が運営していたことである。

「もしや子孫の方が管理されているのか」と思って聞いてみたところ、管理どころか、今でもここにお住まいとのこと、そうすると、まず、私ならずとも頭に浮かぶ疑問は、「よくぞ戦後を維持できたものだ」というものであろう。だが、この点は事情を聴いて納得し、また、認識も新たにした。

当時、明治政府の要人たちはこれらを単なる避暑のための施設として計画したのではなく、「農は国家の大本なり」ということから、食糧増産の為の試験農場として取得したという側面があったようで、そのため、多くが広大な面積を有しており、この別荘も天然林約百五十町歩、草山六百町歩の山林を有し、そこへ農家の次男三男で土地を持たない人たちを開墾事業に取り組ませ、さらに、昭和九年（一九三四年）にはその小作人らに土地を分譲してしまったのだとか。その為、戦後の農地解放の影響も受けなかったらしい。

もともと、山縣有朋その人には成人した男子はいなかったらしく、甥を養子に迎えて山縣家を継がせたとのことであったが、思えば、我が福岡県の隣、山口県で生を受けた男の子孫が、今、ここ、野州の野で家を守っているのである。私としては故国を数百里も離れた山野で、かつて、隣に住んでいた人の子孫に巡り会ったような気がして、少々、不思議な気もしなくもなかったが、不思議な気がしたのはむしろそれからであった。

*

この日、私は交通機関が他になかった為、タクシーで乗り付けていたのだが、辞去してこの門を走り出した瞬間、ふと、なぜか大正天皇になったのである。と言っても、正確に言えば「大正天皇の気分になった」というべきで、これはまあ、砂利道を…、車の後部座席に独りで座り…、門などという物を一旦停止もせず潜り走り出る…などという現代社会ではなかなか無い経験をしたことに起因するのであろうが、ただ、なぜ、山縣有朋でも昭和天皇でもなく、大正天皇だったのかは私にも説明がつかないことではある。

新 会 員 の ご 紹 介

株式会社キャンパスサポート西南

代表者:代表取締役 高良 研一

所在地:〒814-0002福岡市早良区西新3丁目12-14 2F

TEL:092-823-3576 FAX:092-823-3590

E-mail:m-barkley@cs-seinan.co.jp

URL:http://www.cs-seinan.co.jp

主要業務: 西南学院グループの支援と共に、地域住民の皆様に貢献することを毎日心がけております。在学生・卒業生・教職員等に係るライフサポート事業においては、損害保険代理業・卒業式用の袴貸・西南オリジナルグッズの販売・学院内の自販機管理・校内売店の経営を行っています。
学院の安心と利便の提供を目的に清掃・警備・保守点検・スクールバス等の管理も行っています。
最近では、学院グループ内だけではなく、一般の企業向けに翻訳事業を立ち上げました。また、2016年の学院100周年に向け、様々なイベントの企画運営にも携わっています。

当社の特色: 現在、会社設立から8年が経過し学院グループ中心の事業から、西南学院の「語学の西南」のブランド力を生かした一般企業向け翻訳事業に力を注いでいます。
英語と日本語の両国語を母国語とする3名のスタッフによる迅速・正確な翻訳、通訳業務文化交流会、英語能力審査などを行っています。
機会があれば、是非ご利用下さい

そ の 他:

西南学院オリジナルグッズ紹介

当社では、ライフサポート事業の一環として、西南学院のオリジナルグッズの販売を行っています。贈答品からイベント等の記念品として幅広くご活用ください。
今回はバラエティに富んだ商品の中から一部をご紹介します。お求めは当社事務所、西南学院大学生生活協同組合、西南学院中学校・高等学校売店にてお願いいたします。

- 西南学院大学 カレッシュリング**
12石から選んで
あなただけのリングを。
男性用: 25,000円~
女性用: 22,500円~
- 詩絵ボールペン**
「富士に桜」。
海外へのお土産に最適。
2,000円
- 百道・西新エリアマップ デザインポーチ**
内側のピンクもかわいい♡
2色(ピンク・ブラック)
各1,260円
- USB メモリースティック**
できる人は使っています。
さりげなく西南をアピール。
1,000円(2GB)
- オリジナルネクタイ**
博多組。西南生の美いに着用必須!?
※3色(紺、緑、エンジ)
各3,700円。
3本セットでは
10,000円。
- クリスマスポストカード**
これからのシーズンにぴったり。
300円(5枚1セット)
- セナフィー**
900円(6個入)
1,500円(10個入)
- チロリアン**
840円(20個入)
1,260円(30個入)
- 扇子 (校歌・聖書植物園柄)**
バッグに一本!
いつでも校歌が歌える!
植物柄は女性に人気。
各1,000円
- 西南学院特選煎茶**
大好評!九州産茶の
オリジナルブレンド。
1,000円(1袋100g)

[Please rest assured that ~]表現で良い取引を!

末次通訳事務所 代表 末次 賢治

アジア進出の企業が多い中、貿易上のトラブルも増加中です。貿易トラブルの解消にはコレボン(海外企業との通信文)の書き方を工夫し、取引相手を安心させて、相手を業務義務に拘束します。日本企業側も【所定業務をきちっと行う様に取り組み、その姿勢をきちっと相手に伝えて相手を安心させる事】が必要。

・海外取引先へ、次の事項を明言する際どう云うでしょうか? 1)「貴社注文分は必ず1/9に出荷します。どうぞご安心下さい」2)「必ず、サンプル品の写真(複数)を送付しますので、どうぞご安心下さい」。相手を安心させる云い方をご紹介します:

1. [Please rest assured that your order will be shipped to you on Jan.9,2014.] や [Please rest assured that we will surely ship your order to you on Jan. 9, 2014.] ※いずれも、【Please rest assured that ~】を使います。

事例2. も [Please rest assured that we will surely send you the photos without fail.] です。

「~(決められた業務)~を取り計らいますので、どうぞご安心下さい」と云う場合【Please rest assured that 主語+動詞~】又は、【Please rest assured of 物事】と云えば相手に安心感をしっかりと与えられます。

・[rest] は上の場合の使い方は動詞。この場合、[休憩]とか[残り]との意では決してありません。

上記の意味は[stayと同意で「~の状態です」]の意。

・[assured] は【物事が保証/確約されて、安心してい

る状態】の意。故に、that ~以下の事項は、⇒<確実にそうなる>と約束されていますからご安心下さい。例3) Please rest assured that all the products you ordered are defect-free. ⇒「貴社発注品は、全品分不良品ではなく、故にどうぞご安心下さい。」

今度は貴方側から輸出側企業に:<キズ等が無い貨物の出荷確認依頼>のコレボン⇒「出荷に際し、弊社発注品は不具合や疵が無く事を保証して下さい」⇒Please assure us that our order(=注文品) must be defect/damage-free when loading it on the vessel to ship it to us. Otherwise, we will, unfortunately, have to cancel this order.

<最初から「疵/不具合貨物」を持ち込み、出荷するとB/Lは「クリーンB/L」(貨物が無傷と証明するB/L)ではなく、Foul B/L(故障付B/L)の扱いとなり、L/C取引の場合、荷為替手形を銀行が買いません。即ち、輸出者に代金が入らず、また保証状(L/G)を輸出者が船会社に差入れて、この問題を回避しても、貨物に疵がある事は変わりなく、輸入地では貨物に付いて問題が生じます。こうなると損害賠償などで手間や労力がかかりますので、最初から、疵の無い貨物の出荷をきちんと相手に確約させる事が必要です。そこで、上記紹介の【Please rest assured ~】の表現を使います。

皆様、この表現形式を日々のコレボン業務でお使い下さい。相手企業を安心させて、かつ、相手を業務に縛る事ができます。

★お尋ねは何なりと! See you next time! Thank you!!

福岡貿易会からのお知らせ

今後開催予定のセミナー

※予定につき変更の場合があります

会員以外の方の受講も可能です。お問い合わせ、お申し込みは、福岡貿易会(☎452-0707)へ

○貿易実務講座実践編 ※ジェット口福岡と共催

- ①日 時 1月16日(木)~17日(金) 9:30~16:30
- ②会 場 福岡商工会議所ビル2階 第2・3研修室
- ③講 師 (株)アースリンク代表取締役 曾我しのぶ 氏
- ④受講料 会員4,000円 一般10,000円

○食品輸入実務者向けセミナー

食品輸入実務担当者を対象とした食品の規格基準について など

- ①日 時 2月6日(木) 13:30~16:30
- ②会 場 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
- ③講 師 福岡検疫所食品監視課 輸入食品相談指導室長 岡田 純也 氏
福岡空港検疫所支所 食品監視課長 平井 秀和 氏
- ④受講料 無料

○税関セミナー

博多港の貿易概況、EPA原産地証明、AEO制度について など

- ①日 時 3月13日(木) 14:00~16:00
- ②会 場 福岡商工会議所ビル4階408会議室
- ③講 師 門司税関 博多税関支署長 小橋 博文 氏
門司税関業務部 原産地調査官 新納 重勝 氏
門司税関業務部 認定事業者管理官 綾垣 智之 氏
- ④受講料 無料

今後開催予定の会議等

- 理事懇談会 平成26年2月3日(月)
- 第2回理事会 平成26年3月25日(火)

企画推進委員会を発足しました

会員の皆さまのニーズを当会の事業に広く反映させるため、会の企画・運営等に関してアドバイスをいただく会員参加型の組織「企画推進委員会」を新たに創設し、第1回目の会合を12月17日(火)に開催しました。

この会は、会員であればどなたでも・いつでも参画可能です。皆さまのご参画をお待ちしております。お問い合わせは事務局まで。